

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.
119
2020 Aug.



[特別企画] 第二十三代 九州大学総長

久保 千春 インタビュー

特集1

“新型コロナ”に立ち向かう。 挑戦こそが未来を拓く。

特集2 [九大の女性研究者活躍についての座談会]



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学広報室

TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会

TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会

TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

第二十三代 九州大学総長

久保 千春 インタビュー

自由な環境で個性を生かし、 世界をリードする大学へ

2020年9月30日の任期満了を目前にした久保千春総長に、
就任後、心に残った出来事や、
これからの九州大学に期待することなどを伺いました。

【任期】 2014(平成26)年10月1日～2020(令和2)年9月30日

- 【略歴】
- 1973年 3月 九州大学医学部卒業
 - 1973年 5月 九州大学医学部心療内科研修医
 - 1975年 4月 九州大学医学部細菌学研究生
 - 1978年 4月 九州大学医学部細菌学助手
 - 1982年11月 アメリカオクラホマ医学研究所 clinical research scientist
 - 1984年11月 国立療養所南福岡病院内科医長
 - 1988年 5月 九州大学医学部心療内科助手
 - 1993年 2月 九州大学医学部心身医学教授
 - 2000年 4月 九州大学大学院医学研究院心身医学教授
 - 2008年 4月～ 九州大学病院長(～2014年3月)
 - 2014年 4月～ 国際医療福祉大学副学長(～2014年9月)
 - 2014年10月～ 九州大学総長

専門:心療内科



【聞き手】
山縣 由美子 理事

このインタビューは、
2020年6月12日、本学椎木講堂
特別応接室で行われました。

CONTENTS

特別企画	02	第二十三代 九州大学総長 久保 千春 インタビュー
	05	久保 千春 総長 在任期間中の 九州大学での主な出来事
特集1	07	“新型コロナ”に立ち向かう。 ●九州大学病院～コロナ危機に立ち向かう現場から ●オンラインで学ぶ・教える。 ●命と経済を守る方法～疫学から分かること ●こんなときこそ「サバ飯」の勧め
特集2	13	[九大の女性研究者活躍についての座談会] 挑戦こそが未来を拓く。 —女性研究者のさらなる躍進に向けて— 九州大学 総長 久保 千春 × 中部大学 特任教授 伊藤 公孝 × 九州大学 特任助教 三浦 静
Close Up! 九大	17	女性研究者活躍促進の取組 女性研究者が活躍する大学へ!
躍動	19	九州大学 PLANET-Q
サークル紹介	21	Challenge! 課外活動
九州大学基金 38	23	
同窓会だより	26	
受賞のお知らせ	29	
Museum Report	30	九州大学の“学校生活資料”

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.119 / 2020 Aug.

■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
 ■TEL:092-802-2130 FAX:092-802-2139
 ■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
 ■Webサイト:https://www.kyushu-u.ac.jp/
 ■印刷:凸版印刷株式会社
 ■編集協力・取材:永井直美
 ■撮影:スタジオ サラ
 ■デザイン:株式会社ライトブレイン

◎お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。
 ◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
 ◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただけます。

**伊都キャンパスの完成で、
未来への想いを新たに**

山縣 6年間の任期のゴールテープ目前というところですが、現在はどのような心境でお過ごしですか。
久保 心境が変わりはなく、任期終了に向けてやるべきことを淡々と進めている感じですね。今一番考慮しているのは、やはり新型コロナウイルス感染症のことで。しっかりと対応をして、九州大学の皆さんが安心して学業や研究に取り組める環境を、1日も早く取り戻したいと思っています。
山縣 コロナによって生活が一変しました。総長ご自身のことでは、東京オリンピックの聖火ランナーに内定されていましたが、中止になってしまいましたね。
久保 子どもたちからプレゼントされたシューズを履いて走る予定だったのですが、使えなくなってしまう



ました。退任後、ランニングに使うかと思っています。(一同笑)
山縣 総長が走る姿、拝見したいです。ところで、この6年間を振り返って、特に心に残る出来事はどんなことでしょうか。
久保 一番に残っているのは、2018年9月に伊都キャンパスへの統合移転が完了し、完成記念式典を開催したこと。
山縣 歴代総長をはじめ多くの皆さんが、メインキャンパスの移転に尽力されてきました。久保総長の時代に完成できたことは大変喜ばしいことですし、大学にとっても歴史に残る出来事だと思います。

久保 九州大学は、2011年に百周年を迎え、新たな100年のスタートを切ったわけですが、伊都キャンパスの完成によって再スタートを切ったと思っています。奇しくも日本は昨年、平成から令和へ改元されました。新たな時代とともに発展していくことでしょうか。また、本学はこの6年間で非常に国際化が進みました。現在、海外留学生が約2400人、全体の約13%を占めています。伊都キャンパスを拠点に、世界をリードする大学になってほしいですね。
山縣 しかし、コロナショックで、これまでの方向性を見直さなければならぬことも多いと思います。コロナ禍の今、九州大学はどのような役割を果たすべきかと考えていますか。
久保 一つは、本学も新型コロナウイルスの新しい治療法や診断法、ワクチンの開発に取り組む必要があると思います

取り組んでいるAI運行バスには、通勤通学の混雑を回避できる機能を備えています。これは、新しい社会システムになると思います。

**指揮者のように
調和を保ち、個々を生かす**

山縣 就任当初、メディアの皆さんから理想の総長像を尋ねられたとき、総長は「オーケストラの指揮者のような総長になりたい」とおっしゃいました。そこで「九大広報」100号の記念号では、総長に九大フィルの指揮を執っていただきました。
久保 あの時は大変でしたが、貴重な体験でした。九大フィル顧問の松村晶工学研究教授から、まず曲を覚えなければならぬので、毎日20回、曲を聴いてくださいと言われました。本番では九大フィルの皆さんに、私のことを気にせず演奏してくださいと事前をお願いしていたので

ですが、皆さん私の指揮を見て演奏するんですよ。私が途中で指揮を止めるとパツと止めてしまつて……。
山縣 それは、そうでしょうか(笑)。ところで、指揮者のような総長になりたいとおっしゃった理由を改めてお聞かせいただけますか。
久保 オーケストラは調和が大事ですが、まずは各演奏者が優れた技術を持っていないけません。大学も同じで、学生や研究者が個性を磨きパフォーマンスを発揮することが大事です。私はそうした多様な個性の調和を築く、指揮者のような総長を目指そうと思ったのです。大学は、世界大学ランキングに象徴されるように競争社会ですので厳しさが必要です。しかし、優秀な人材を育成するには、学生や研究者が個性を伸ばせるのびのびとした環境をつくるのが大切だと思います。
山縣 大学ランキングといえば、日経新聞グループによる有力企業の人事担当者のアンケートで昨年、九州大学が全国1位に選ばれました。学生たちの独創性や行動力が評価されたようですね。これはとても良い変化だと思いますが、総長は九大学生をどのように見ていらっしゃいますか。
久保 私の学生時代と比較すると、自分の考えをしっかりと発言できる学生が増えたと思います。時代の流れもありですが、大学もさまざまなことに挑戦できる環境を整えてきましたし、そうした経験が学生を成長させて、評価につながっているのではないのでしょうか。

**拠点に、
と社会貢献を目指す。**



**世界に誇れる伊都キャンパスを
さらなる教育・研究・診療の発展**

す。それから、コロナによって社会システムがデジタル化に大きくシフトし、オンライン教育も広がりました。九州大学は、2013年から「パソコン必携」としてデジタル教育に力を入れてきましたので、社会に提言できるようになればと思っています。
山縣 今までやってきたことが通用しなくなり、新しく切り拓いていか

**心療内科医の経験から、
信頼関係と対話を重視**

山縣 理事として側で総長を拝見してきて、総長は人の話をすぐよく聞いてくださるなと思っていました。おかげでみんなが、のびのびと自分の意見を言えるのです。総長ご自身、ご自分を大きく見せようとされませんし、失礼な言い方になるかもしれませんが、周りが守ってあげたいと思うタイプの総長でいらしたんですよね。総長は、教職員をまとめる上でどのような心がけてこられましたか。
久保 一番は信頼関係です。専門が心療内科で、治療にあたっては患者さんとの信頼関係が非常に重要でした。その経験から、大学においても構成員との信頼関係を大事にしたいと思ったのです。そして、まずは現場を知ろうと積極的に各部署に向向いて話をするようにしました。

**愛をもって「真善美」を
体現してほしい**

山縣 最後に、九州大学の学生や教職員に向けて総長からお言葉をいただきました。ご披露いただけますか。
久保 「真善美愛」という言葉を贈ることにしました。「真善美」は哲学用語です。「真」は学問や知性、「善」は道徳や意思、「美」は芸術や感性の理想の姿を示します。私はその根幹には「愛」が必要だと思い、少し欲張って4文字にしました。

山縣 まっすぐな心をお持ちの総長にピッタリなお言葉だと思います。これから久保総長をみんな頼りにし続けたいと思いますので見守っていただければと思います。
久保 はい。今後もできる範囲でサポートしていきたいと思っています。

【特別企画】
第二十三代 九州大学総長
久保 千春
インタビュー

久保 心療内科医が患者さんを面接する際は、「共振れしながら観察する」必要があります。「共振れ」とは患者さんの気持ちに共感すること。つまり相手に共感しながら、今自分に起きていることを客観的に観察するのもかもしれません。



久保千春 総長 在任期間中の九州大学での主な出来事

2014
平成26年

- 10月 ●久保千春 第23代九州大学総長就任(写真①)
- 11月 ●國武豊喜 名誉教授が文化勲章受章、井上和秀 理事・副学長が紫綬褒章受章
- 12月 ●駐日欧州連合(EU)大使らと久保総長の懇談会およびEUIJ九州国際会議を開催

2015
平成27年

- 1月 ●サイバーセキュリティセンター 開所式・シンポジウム開催
- 2月 ●椎木講堂が福岡県美しいまちづくり建築賞の大賞受賞
- 2月 ●カーボンニュートラル・エネルギー国際研究センター 第2研究棟開所
- 3月 ●世界初大学公用車・燃料電池自動車「MIRA-1」(ミライ)納車セレモニー「水素社会出発式」開催
- 国連と共同で初めての国際宇宙天気ワークショップを福岡で開催
- マスコア・インダストリー研究所オーストラリア分室開設
- 理化学研究所と九州大学の基本協定締結
- 4月 ●九州大学医学歴史館開館
- 5月 ●システム創薬リサーチセンター「グリーンファルマ研究所」開所式挙行政
- 6月 ●共進化社会システムイノベーション施設の開所式挙行政
- 7月 ●本学学生が学生ラジオCMコンテストで最優秀賞受賞
- 受賞したCMが8月中全国でオンエア
- 9月 ●本学鳥人間チームが鳥人間コンテストで優勝(実施日は7月25日・26日)
- 10月 ●アグロシナジー2015・2020公表
- 理学系総合教育研究棟開所
- 第9回日中長学長会議開催
- 11月 ●本学学生が福岡マラソン2015で優勝

日豪大学間シンポジウムを シドニー大学と共同開催(写真②)

- 國武豊喜 名誉教授が京都賞受賞、佐々木裕之 主幹教授、堀田善治 主幹教授(当時)が紫綬褒章受章
- 12月 ●伊都キャンパスにウエスト1号館開校
- 農学系総合教育研究棟新営工事安全祈願祭開催
- 國武豊喜 名誉教授が高等研究特別主幹教授に就任
- 理学研究棟 森田浩介教授発見の「113番元素」(命名権が日本へ)

2016
平成28年

- 1月 ●伊都キャンパスに亭亭舎・咬咬舎開所
- 人文社会科学系総合教育研究棟新営工事着工
- 2月 ●株式会社Kyurix本格始動
- 3月 ●本学研究グループが発見した小惑星に「王貞治」と命名
- ノーベル化学賞受賞者・九州・山口地区国立大学長
- 熊本地震が発生 九州・山口地区国立大学長「熊本大学支援連絡会」設置
- 5月 ●JST日中大学フォーラム(北京、在中国九州大学同窓会(北京)開催)



① 第23代九州大学総長就任記者会見で抱負を語る(2014年10月2日)



② 日豪大学間シンポジウム後のレセプションにて(2015年11月24日)

③ ニホニウム(Nh)命名に関する記者会見後の森田浩介教授とともに(2016年12月1日)

6月 ●113番元素名案(ニホニウム)パブリックレビュー
- ヨット部世界選手権出場
- 7月 ●スマートモビリティ推進コンソーシアム開催
- 一徳総活躍・地方創生全国大会開催
- 8月 ●AIを用いた移住者満足度向上システムの共同実証実験開始
- 9月 ●インターネット出願開始
- カリフォルニアオフィスSVEP 10周年記念式典
- 第11回福岡・釜山フォーラム開催
- 秋季卒業式からアカデミックカウン着用品開始
- 10月 ●エネルギー研究教育機構設置
- 新中央図書館プレオープン
- 燃料電池自動車(ホンダ・クラリティ FUEL CELL)導入
- アカデミックフェスティバル初開催
- 日本ジョナサン・チヨイ文化館入式、孫文カンファレンス開催
- 11月 ●中野三敏名誉教授文化勲章受章
- UR都市機構と箱崎跡地南エリアで共同事業開始
- 新学部「共創学部」設置構想発表
- 森田浩介教授が発見した「113番元素」の名称を「ニホニウム」(元素記号「Nh」)に正式決定(写真③)
- 12月 ●自動運転バスデモンストレーション

2017
平成29年

- 1月 ●理学研究棟 森田浩介教授朝日賞受賞
- 九州大学エネルギーウィーク 初開催
- 2月 ●九州大学発ベンチャー振興会議発足
- 3月 ●在ベトナム九州大学同窓会開催
- 感謝の集い開催
- 第1回グローバル化アドバイザーボードミーティング
- 九州大学病院が外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)認証取得
- 4月 ●学園通線全線開通
- 小体育館開所
- 5月 ●瑞宝大紋章(梶山千里元総長)、瑞宝重光章(毎月健彦特別主幹教授)受章
- 石井国土交通大臣往訪
- 糸島市九州大学国際村構想発表
- 文化系サークル懇談会開催
- 6月 ●起業部発足(写真④)
- 農学部高原農場視察
- 7月 ●豪クイーンズランド大学生受入れプログラム
- 九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団結
- 椎木正和感謝コンサート開催
- 松野文部科学大臣来訪
- 8月 ●共創学部設置認可
- インターネット出願開始
- ヒアリ研究チーム発足
- 総長アドバイザリー会議開催
- 9月 ●法科大学院六本松施設開所
- 10月 ●九州大学安全の日制定
- 伊都キャンパス南口開通
- 九大・北大共同資源工学専攻開設式開催
- アカデミックフェスティバル2017開催
- 福岡県・春日市と連携協定締結
- 大学の機能強化を進めるための意見交換会開始
- 西日本文化賞受賞(理学研究棟・森田浩介教授、仁科記念賞受賞(工学研究棟・安達千波矢教授)、瑞宝中級賞受賞(新海征治特別主幹教授)、伊都キャンパス・インターネット連絡橋開通
- 「ありがとう箱崎」感謝の集い開催
- 第1回九州大学ビジネスプランコンテスト
- 農学部山生物学実験施設視察
- 稲盛フロンティア研究センター10周年記念ワークショップ実施
- 江蘇杯中国語コンテスト開催
- 法学研究棟 河野俊行教授国際イコモス会長就任

2018
平成30年

- 1月 ●台湾同窓会
- 九州大学エネルギーウィーク2018開催
- 農学系総合教育研究棟竣工
- 2月 ●人文社会科学系総合教育研究棟竣工
- 九州大学日本橋サテライト開所記念式典開催
- 新スカンネットO(いと)完成
- CEOクラブ創設
- 3月 ●九州大学発ベンチャー振興会議開催
- 文系4学部副専攻プログラム開始
- 5月 ●中本博雄賞創設
- 福岡・釜山大学学長会議
- 6月 ●芸術工学部50周年記念式典開催
- 共創学部オープンニングシンポジウム
- ビッグオレンジアンテナショップ開店
- 7月 ●総合体育館屋内プール完成
- 日本ジョナサン・KS ティオイ文化館開館
- センター4号館完成
- 比較法国際アカデミー国際会議開催
- 8月 ●関西同窓会10周年記念
- 九大フィル東京公演
- 福岡・釜山フォーラム開催
- 9月 ●世界社会科学フォーラム(WSSF)開催
- 伊都キャンパス完成記念式典挙行政(写真⑤)
- 農学研究棟開校式典挙行政
- イーストゾーン完成記念式典挙行政
- アカデミックフェスティバル2018開催
- 中央図書館ランドオープン
- 石ヶ原古墳跡展望展示室公開

2020
令和2年

- 1月 ●吉野彰訪問教授に九州大学名誉教授の称号授与(写真⑦)
- 3月 ●春季学位授与式を総代学生のみの出席により開催し、オンラインでライブ配信
- 4月 ●春季入学式開催中止
- 九州大学緊急学生支援プラン
- 5月 ●オンラインによる春季授業開始
- 12月 ●中野三敏名誉教授特別主幹教授 銃撃され死去
- I2CNER10周年記念シンポジウム開催
- 毎月健彦高等研究特別主幹教授 日本学士院会員に選定
- 日本学術振興会賞25名中5名受賞
- ナイスステップな研究者10名中2名選定

2019
平成31年/令和元年

- 1月 ●エネルギーウィーク2019開催
- 2月 ●伊都診療所開所
- 箱崎キャンパス閉校式「ありがとう箱崎」開催
- 3月 ●THE世界大学ランキング 九州大学が国内4位
- 4月 ●オンデマンド学内バス「aimo」出発式
- 先進電気推進飛行体研究センターを設置
- 桜植樹式
- 5月 ●台北医学大学との大学間交流協定締結
- 6月 ●アンカラオフィス開所
- 「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」(日経HR・日本経済新聞社)で本学が全国総合1位
- 7月 ●環境省地域ESD拠点登録式典 看板掲揚式
- アジア・オセアニア研究教育機構
- キックオフシンポジウム開催
- 8月 ●附属汎オミクス計測・計算科学センター開所式
- イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校と戦略的交流協定締結
- 九大発ベンチャー2社が大学発ベンチャー表彰2019で表彰
- 9月 ●九州沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム開催
- 10月 ●吉野彰フリーテックノロジー研究教育センター訪問教授 ノーベル化学賞受賞
- アカデミックフェスティバル2019開催、キャッチコピー発表
- 農学部創立百周年記念式典
- 11月 ●ジュン・アンダ賞表彰式
- 「宇宙Fishco2007」除幕式
- OS-APPLE2019開催
- 文化勲章受章者 中野三敏名誉教授逝去
- 中村哲高等研究特別主幹教授 銃撃され死去
- I2CNER10周年記念シンポジウム開催
- 毎月健彦高等研究特別主幹教授 日本学士院会員に選定
- 日本学術振興会賞25名中5名受賞
- ナイスステップな研究者10名中2名選定

完成した伊都キャンパス(2018年9月)



⑦ 2019年ノーベル化学賞受賞の吉野彰 名誉教授とともに(2020年1月31日)



⑥ 七大学総合体育大会出場の出陣式とともに(2019年2月18日)



九州大学病院
病院長 赤司 浩一

九州大学病院 コロナ危機に立ち向かう現場から

福岡県の感染症診療の砦のひとつである九州大学病院。本来の使命である先進医療や高度医療の病院機能を維持しつつ、いかにして新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に立ち向かってきたのか。第一波、収束までの活動を赤司浩一病院長に伺いました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックは、今も拡大が続いており、人間の社会・経済活動などのあらゆる分野に強烈なインパクトを与えています。九州大学病院は、福岡県の感染症診療の砦のひとつとして、福岡市、福岡県と連携して診療を行ってきました。第一波が通り抜けた令和2年6月20日現在に於ける九州大学病院の活動をまとめます。

世界的にCOVID-19感染症が急速に拡大しつつあった状況を受けて、本年2月1日にCOVID-19は指定感染症に定められました。これによりCOVID-19感染の診断が確定した時点で、陽性患者としてその接触歴を徹底的に調べ、濃厚接触者のすべてにPCR検査を行い、陽性者は感染症指定医療機関のみ(近辺では、福岡東医療センター、福岡市民病院、福岡赤十字病院、九州医療センターなど)で治療されることになりました。これらは、「指定感染症」に対する基本対策であり、過去の新型コロナウイルスなどの事例に沿って、感染拡大を防止するための「防波堤」として用意されていたシステムでした。

ところが2月20日に福岡県でCOVID-19第一症例が診断されてから、これらの標準的対策では新型コロナウイルス感染症に対しては不十分であることが次第に明らかになってきました。3月に入ってから感染者数が爆発的に増え、防波堤であるはずの指定医療機関の感染病床が

らCOVID-19感染者が溢れはじめました。ピーク時には百人以上の感染者が入院できずに自宅待機となり、そこで更に家族内感染者が増える、という悪循環に追い込まれました。街中でも感染経路不明の感染者が増加し、「洪水」を起こしかけているのが誰の目からも明らかで、日本各地が「医療崩壊」寸前の状況に陥りました。ほんの数ヶ月前のことです。まだ暗く寒い時期でありましたが、私達は不安を全身で感じながらも「朝の来ない夜はない」と自らに言い聞かせ、毎日新しい方策を話し合い、九州大学病院が最大の實力を発揮できるよう、既成概念に囚われない柔軟な発想で運営することに致しました。

九州大学病院としての重要な使命は、①福岡地域の新型コロナウイルス感染症診療に関わり、その感染制御に直接貢献すること、②COVID-19以外の様々な難病に対する先進医療や高度医療に向けての病院機能を維持し、地域医療の「最後の砦」としての役割を確実に果たすこと、と再確認しました。そこで九州大学病院内に平成17年より設置されたグローバル感染症センターを中心に、病院長・副病院長を主なメンバーとする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、医療資源が不足するなか、病院職員が一丸となって感染拡大の阻止に取り組みました。まず、院内に新型コロナウイルスを持ち込ませず、もし持ち込まれても院内感染による拡大を防ぐために、

手指消毒、マスク着用を徹底しました。看護部、事務部、ボランティアスタッフが医療用ガーゼ等を使った自家製マスクを毎日総出で作成し、マスクを持たない外来訪問者、病棟訪問者全員に無料配布し着用を促しました。一方で、確定診断のため短時間で結果が得られる新型のPCR機器を新たに複数導入し、病院内伝播に関して徹底的な対策を取りました。

九州大学病院では、当初、体外式膜型人工肺(ECMO)による治療など厳密な全身管理が必要な重症例のみを感染症病棟や集中治療室で診療していましたが、4月に入りこの切迫した状況を受けて病院地区イノベーションセンターの治療病棟13床、さらにウエストウィング2Fの精神科病棟15床を、新たにCOVID-19専用病棟に改修して感染者を受け入れることにしました。決定から1週間以内で開棟できましたが、いずれの病棟も通常の診療棟から物理的に離れており、適切なゾーニングが可能でした。外来や急を要しない患者さんの受け入れを抑制し、感染症内科、総合診療科、救命救急センターなどに常駐していた医師、看護師、検査技師より構成される専門医療チームをCOVID-19専用病棟に配置しました。開棟した直後から、病床は急速に埋まりました。その後、九州大学病院の動きに追従する病院も増え、自粛生活が行き渡りはじめ、自宅待患者数は潮が引くように減っていきました。またこの間、グ

ローバル感染症センターを通じて県内の指定病院に多数の感染症専門医を派遣し、県のCOVID-19診療体制の堅持にも大きな貢献を果たしました。

これらのコロナ専用病棟を含め、計32症例を受け入れた結果、一例の死亡者もなく全員回復退院して現在に到っています。一方で、九州大学病院本来の役割である高難度手術、移植治療などの先進医療についても通常の診療数を維持することができました。



コロナ対策会議の様子

既知の外来感染症、例えばSARSやエボラ出血熱のような致死率が高い感染症は、感染とともに症状が出現するため患者を迅速に隔離・診療することが可能です。ところがCOVID-19感染症は、人によって示す症状の程度があまりに多彩であり重症化の予測ができない上に、感染症の経過が極めて長いため無症状感染者から水平伝播するという点で、従来のシステムでは想定外の感染症でした。各国はそれぞれがベストと考える方法論で立ち向かいましたが、総合的に見て日本は良い判断をしたと思います。異論はあるでしょうが、PCR検査という確定診断を感染が強く疑われる有症者およびその濃厚接触感染者に絞って行い、クラスター解析結果に基づいた隔離に重きをおき、緩やかな緊急事態宣言下での国民の自覚を信じたことは、日本の医療体制や国民性を考慮した合理的対応でした。

個人的には、自粛期間は、「生きる」とは何かを自問自答する得がたい時間であったと感じています。新型コロナウイルス感染症は、人類が今まで何度も経験してきた地球規模のパンデミック感染症のひとつにすぎませんが、潜在して拡大する能力を持ちながら時に致死的な毒性を示すという特徴により、人類の目指す「グローバル化」に立ちほだかる、大災害に匹敵する攻撃力を持っています。ヒト、カネ、モノが追い立てられるよ

うに世界中を移動し、国家と社会の価値観が均質化しつつある現代世界を挑発しているようにも感じられます。私達はウイルスそのものを恐れましたが、同時にそれを受け止めることができな現代文明の脆弱性に戦慄しました。COVID-19を自然からの人間社会に対する挑戦と捉え、抗原検出、PCR法の簡便化等の診断面での迅速化、新しい治療薬やワクチンの開発など、科学力、創造力、人間力でこれに対抗していくことが重要です。九州大学の総合力を活かすべきところだと思います。



外来患者配布用マスクを事務部で作成

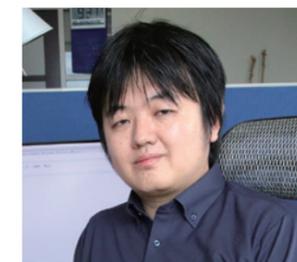
を恐れず真摯に医療と向き合う姿を目の当たりにし、「ノブレス・オブリージ」に通じる医療人としての誇りと志の共有こそが本院の財産であると実感しています。COVID-19対応による財務上の損害は大きいものがありますが、九州大学病院としての使命を果たすことにはささかの躊躇いがあるはずありません。今後も志の高い優れた医療人の育成に努め、期待と信頼に応える九州大学病院のあるべき姿を追求してまいります。

すべての職員がリスクを恐れず、医療と向き合う姿を目の当たりにし、医療人としての誇りと志の共有こそが本院の財産であると実感しました。

オンラインで 学ぶ・教える。

島田敬士教授を直撃！
九州大学の先進のオンライン授業
新型コロナの感染拡大を受けて、オンライン授業が急速に広がっています。全国の大学に先駆けて、2013年からデジタル学習環境を構築してきた本学は、オンライン授業においても先進的な取り組みを行っています。その特徴と実施の状況を、本学大学院システム情報科学研究所情報知能工学部門島田敬士教授に伺いました。

この取材は、2020年6月4日、
グループウェアMicrosoft Teamsで行いました。



●九州大学大学院システム
情報科学研究所
情報知能工学部門教授
●情報基盤研究開発センター
教育情報基盤研究部門教授
●情報統括本部教育
基盤事業室室長

島田 敬士

先進的なデジタル学習環境で オンライン授業を実施

九州大学のオンライン授業の特徴を
お聞かせいただけますか。

本学は、「PC必携化」をキーワードに、2013年からデジタル学習環境を全学で展開してきました。そのベースとなる「M2B(みつば)学習支援システム」を活用し、オンライン授業を実施しています。また、学生主体のサポート組織「quickQ」を設置。体制の構築から学生に携わってもらいました。さらに、本学は教育系システムを活用した研究を以前から進めており、単に授業を実施するだけでなく、オンライン授業による成果を客観的に分析・評価しています。これは本学の大きなアドバンテージだと思います。

— どのような授業形態で実施されているのでしょうか。 —

「M2B(みつば)学習支援システム」とビデオ会議システムを活用し、3つの形態の授業を実施しています(図1)。事前に教材を配信し、好きな時間に受講できるeラーニングのオンデマンド型授業、ネット同時配信による音声のみの授業、そして講義映像をリアルタイムに配信する映像中継型授業です。講義映像の配信は、従来の講義をそのまま配信するイメージでわかりやすいのですが、通信量が大きく通信コストがかかるのが問題です。高速回線契約をしていない学生もあり、すべての授業を映像中継するわけにはいきませんので、3つの授業形態を上手に活用していただくよう先生方には提案しています。概算ですが、5月25日現在で約4800コース

■図1 九州大学オンライン授業の3つの形態

実施方法	授業形態と特徴
① eラーニング (オンデマンド)	●教材を事前配布 ●好きな時間に学習 ●フォーラムで質問応答 ●オフィスアワーに音声応答
② ネット同時配信 (音声+電子教材)	●デジタル教科書を手元で閲覧 ●音声のリアルタイム配信 ●フォーラムで質問受付
③ ネット同時配信 (映像中継)	●講義映像のリアルタイム配信 ●黒板講義にも対応可能 ●通信量が他に比べて大きい

— 学生主体のサポート体制を構築しようと思われたきっかけは。 —
当初は、教職員の有志グループで対応していましたが、オンライン授業の実施日が迫るに連れて、システム利用に関する問い合わせが増えてきました。一つの質問に対して質問者と何度もキヤッチボールすることもあり、教職員の有志だけで対応することに限界を感じるようになりました。そこで、学生主体のサポート体制をつくる

短期間で学生主体の サポート体制を構築

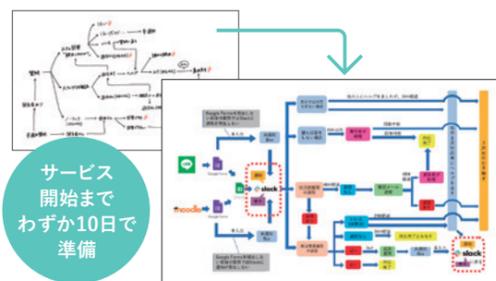
— 学生主体のサポート体制を構築しようと思われたきっかけは。 —
当初は、教職員の有志グループで対応していましたが、オンライン授業の実施日が迫るに連れて、システム利用に関する問い合わせが増えてきました。一つの質問に対して質問者と何度もキヤッチボールすることもあり、教職員の有志だけで対応することに限界を感じるようになりました。そこで、学生主体のサポート体制をつくる



オンライン授業サポートの 縁の下の力持ち iQ Lab(ラボ)

さまざまな民間企業や大学のプロジェクトを、学生が主体的に実行する学生参加型の産学連携組織。NTTドコモのAI運行バスの実証実験で運行状況の分析やユーザーサポートの経験があり、早く、柔軟にプロジェクトを作り出すスキームを持つ。オンライン授業においては、敢えてサポートの実働部分には関わらず、サポート体制のスキームの企画、お問い合わせ対応フローの設計、使用ツールの選定、サポートマニュアルの作成などを担当。

■図2 問い合わせフローの設計と実装



iQ Labが考案した問い合わせフロー図。設計は、スキームを元にしたホワイトボードでのプレストから始まった。

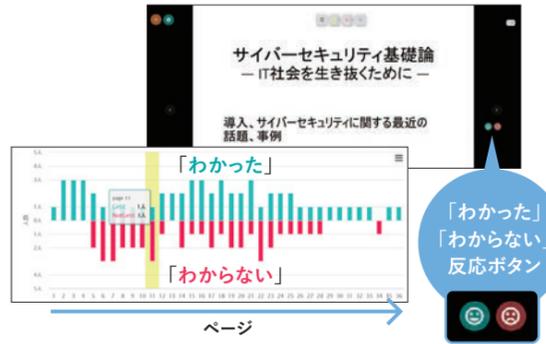
— どのようなプロセスで体制を構築されたのですか。 —
偶然、iQ Labという九州大学の学生主体の組織があることを知りました。iQ Labは、エンジニアリング、デザイン、マネジメントなどに長けた組織です。本学の産学連携プロジェクト、AI運行バスの実証事業を手掛けた実績もあり、協力をお願いすることにしました。一方で、オンライン授業をサポートするにはシステムの詳細を理解していなければいけません。そこは、日頃から研究で学習支援システムを使用しているLA(ラーニングアナリティクス)研究室の学生の力を借りることにしました。そして4月中旬、iQ LabとLA研究室の学生十数人を1期生として、「quickQ」という学生による問い合わせ対応チームを立ち上げたのです。
— 準備期間があまりなかったそうですね。 —
問い合わせフローの設計と実装は、iQ Labのメンバーを中心に、サ

オンライン授業の評価に 蓄積したデータを活用

— オンライン授業の成果や課題についてお聞かせください。 —

九州大学は、2014年から教育・学習のデータを蓄積していますので、今年と昨年のデータを比較し、成果を評価することができます。例えば、確認テストの成績だけ見れば、その平均点に大きな差はありません。課題としては、先生方から、カメラをオフしている、学生が授業を理解しているのかわかりにくいとの声が上がっていました。これについては、教育データを活用して解決しようとしています。例えば、デジタル教科書のどのページを、どの時間に、何人の学生がアクセスしているかヒートマップで確認できるようにしています。教員と学生が開いているページが同じであれば、授業についてきていると判断できますし、前のページを見ている学生が多ければ、授業のペースが早いと判断できます。つまり、ヒートマップを見ながら授業のスピードを調整できるのです。また、デジタル教科書の全てのページに理解度を確認するボタンを設けています(図3)。ボタンを押す押さないは任意ですが、わからないというボタンを押した学生が多ければ、補足説明などを行ってフォローすることができそうです。さらにデジタル教科書の活動因子によって、成績の良い学生とそうでない学生の学習活動に、どのような違いがあるのかを客観的に分析する研究も進んでいます。

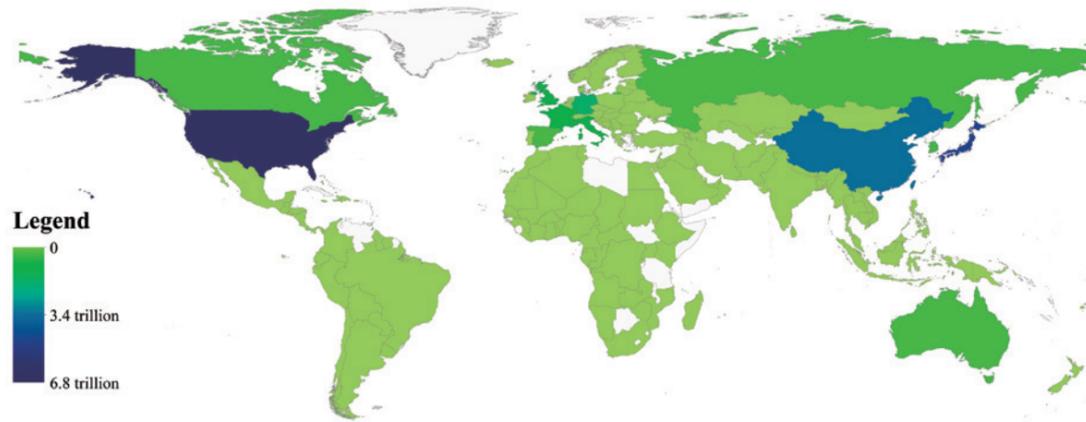
■図3 デジタル教科書のボタン



理解度を把握するために、デジタル教科書の各ページにボタンを設ける



■ 対策で救える
人命の価値
(単位:兆ドル)



Chango誌に受理された我々の研究(厳善彬研究員との共同研究)で、世界各国で新型コロナウイルス対策としてソーシャル・ディスタンス戦略を行うことで、どれだけの人命を救えるかの計算を行ったところ、世界のGDPの約47%に相当する4391兆円の生命の価値が失われることを回避できること、日本ではGDP536兆円の106%分、567兆円の価値を守れることが分かりました。ソーシャル・ディスタンス戦略を集中して実行することで、日本では1年分のGDP以上の価値を守ることが出来るのです。

このことから、日本をはじめ、多くの国で示した1割以下の景気悪化以上に各個人に所得補償を十分にすることが望ましい、つまり感染対策でソーシャル・ディスタンス戦略を行い、仕事や生活が不便になる分を補填して生活の基盤をしっかりと立て、感染者が0近くになったのちに大きく活動再開に方向が望ましいということが言え、今後、再度大きな被害が出るたびに補償を大きく、しかし活動自粛は徹底することが望ましいと考えられます。

日本国内においては567兆円の生命の価値があるので、全員への補償金給付ならば計算では1人当たり450万円を給付可能と言えます。これは多くの議論されている金額に比べると大きなものですが、命を救うことでその後に経済貢献できる元の人的資本にもなり、将来、経済に貢献できるため許容できるものと言えます。

命と経済を守る方法 疫学から 分かること

疫学は、集団を対象として病気の発生原因や流行状態、予防を研究する学問です。経済とつなげることで、新型コロナに対して、どの程度の対策が可能かを紹介します。



九州大学 主幹教授・
都市研究センター長
まなぎ
馬奈木 俊介
教授

国連「富の計測プロジェクト」を代表し、医療や健康の価値を可視化する新富報告書(Inclusive Wealth Report)を発表。人的資本の分析、SDGsの施策を進めて、豊かな社会づくりを実現するための新しい指標をつくる研究を実施。

コロナ禍において補償があまりない状況では、人を守ることをすべてとして経済活動の自粛を続けると、景気は後退し続け、経済がダメになってしまいます。税収が減り、社会保障制度を支えることが難しくなり、多くの国民の命が失われるのです。

逆に、経済のみを大事にして活動制限せずに感染者が増え続けた場合、死者が一気に増加します。経済の犠牲と、生命の犠牲の板挟みを避けるには、命の価値をどう経済で位置付けるかを考える必要があります。

通常、感染者ゼロに向ける経済活動の制約は、当初は多くの人にとって感染の恐怖もあるため賛同が得られると考えられますが、制約が長期に及べば不満が出るため、また活動再開して感染者が増えてしまい、結局このままでは抗ウイルス薬やワクチンが開発され利用できるまで、活

動制約と感染者増加を繰り返すことになってしまいます。

各国の活動制限に伴う景気悪化の損失は、国内総生産(GDP)の15%強と算出されています。景気への悪影響を考慮して効果の少ない制約になると、感染者が増え続け、逆に活動制限解除まで時間がかかります。

このような混乱は、比較する軸が人命と経済という異なるものであるため、政治的に国民の反応を見ながらの判断となることから起こります。今後、第2波、第3波、または次に来る感染症対策を考える上でどのように出来るか考えたいと思います。

まず発想を変え、人を守ることに経済価値を考えます。統計的生命価値を用い、生命リスクを脅かすことに対してどのように政策を講じるべきかで各国の政策にも活用されている手法です。

Technological Forecasting & Social

こんなときこそ 「サバ飯」の勧め

2020年4月緊急事態宣言でレストランが休業し、外食に頼っていた下宿生は困っているのではと心配しています。そういう方にお勧めの「サバ飯」をご存知ですか。鯖が入ったご飯ではありません。災害用語としても定着したサバイバル飯の略称で、電気、ガス、水道などライフラインが寸断しても作れる食事のことです。



九州大学
男女共同参画推進室
杉本 めぐみ
准教授

京都大学大学院修了(博士:地球環境学)。東京大地震研究所特任研究員などを経て、2014年度から九州大。専門は防災教育、災害リスクマネジメント。在インドネシア日本国大使館経済班で2004年スマトラ沖津波被災地の復興と防災に携わる。西日本新聞「後悔しない備え」連載中。

「サバ飯講座」は、基幹教育1年生と院生に分けて2015年度に始めました。従来の災害の仕組みや防災の座学だけでなく、被災地の仮設住宅の住民と交流し、災害時の備えを学生が自ら考えて日頃から進める行動変容を講義の狙いとしています。

私は1995年阪神淡路大震災を学部生で経験しました。若くして犠牲になった同級生たちの無念を繰り返さないよう、九大学生が今後の人生に教訓を生かし、支える側にもなっていきたいと思っています。

1月17日震災記念日の講義日に毎年、サバ飯を一品持ち寄ったランチ会も開催してい



ペットボトルでビザ混ぜ

は、学生が楽しみながら物資が無い時に物を代替して工夫できることを学べます。ペットボトルで材料を振って混ぜてから発酵させ、段ボール箱で設えたビザ窯のオーブンで焼いて完成です。

炭水化物に偏りがちでしょっぱい味付けが多い市販

の非常食ではなく、身近な食品も学生がサバ飯に利用できると気付くよう心がけています。家庭では賞味期限が切れるものから食べて買いたす「ローリングストック法」も有効です。馴染みの郷土食でも賄えると気付けば、取組み易くなります。

サバ飯定番の味噌玉は、鹿児島で鰹節と味噌に好みの具を入れてお茶や湯を注ぐだけの茶節と呼ばれています。沖縄では鰹湯と呼び方が異なることも興味深いです。九州出身の多い九大学生を通し、私も九州の食生活の豊かさを知恵を知りました。

ヨーグルトで戻した切干大根、サラミ、ドライマンゴーを載せたカナッペは学生の人気メニューです。気持ちが悪さがちな災害時に、パーティメニューを食べることで食

楽しんで余裕が生まれます。新型コロナ禍で、在宅の小さなお子

さんだけでも作れるのでお勧めです。新型コロナ禍では自分で食べ物の安全を確認し、男女を問わず自炊する力が求められています(防災は第4次男女共同参画基本計画の1つ)。災害時もカセットコンロを備えていれば、自炊で食の質は落ちません。熱を加えた温かい食べ物で暖をとる、ウイルスも不活化し衛生的です。

災害時に人を救え、支えあえるのは、人しかいないのです。受講生から九大病院に新型コロナ患者に向き合う医療従事者へお茶やコーヒーを寄贈するOBも育っています(創食倶楽部)。来年1月サバ飯のランチ会は、オンライン開催にします。関心のある方はぜひご参加ください。



茶節(味噌、鰹節、ドライ菜の花、梅干し、干しエビ、切干し大根)

特集2 [九大の女性研究者活躍についての座談会]

挑戦こそが未来を拓く。

—女性研究者のさらなる躍進に向けて—

「賞」をつくり、未知の世界に挑む研究者の励ましに

久保 伊藤早苗先生が亡くなられて1年近く経ちました。本日は伊藤早苗先生を偲び、先生の研究への思いや、創設された伊藤賞や伊藤早苗賞のこと、さらには女性研究者活躍に向けた本学の取り組みについて、語り合いたいと思います。最初に伊藤公孝先生から、そのお人柄や研究姿勢についてお話しただけです。

伊藤 早苗は研究者として幸せな人生を送ることができたと思います。その人柄を一言で言えば、一途な研究者で理想主義者でした。「どうなるかではなく、どうするかが大事だ」と常々話しており、自分が解かなければならないと思う問題に、向こう見ずに挑戦・実行する勇氣ある研究者でもありました。しかし、独創的な研究は大抵うまくいきません。しばしば落ち込むことになり、研究とは孤独な道なのだということ



を身に染みて感じていたと思います。そんな孤独なチャレンジャーを貫き、1993年、物理学の分野の優れた業績に贈られる仁科記念賞を、女性研究者として初めて受賞しました。早苗は、「賞によって励まされたい」という自信につながった」と話しておりました。その経験から「賞は人をつくる」と考えるようになり、「人をつくるために賞をつくる」という発想に至りました。そして、2005年にヨーロッパ物理学会のプラズマ学会で「伊藤賞」を創設しました。早苗の教授定年後は、「九州大学伊藤賞」としてさらに立派な賞にしていきたいことを深く感謝しておりました。

久保 また九州大学では、2018年度に九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞を創設し、2019年度からこの賞の呼称を伊藤早苗賞としました。その若手女性研究者部門で最優秀賞を受賞されたのが三浦静先生です。三浦先生、受賞の感想をお聞かせいただけますか。

三浦 伊藤先生のお話にありましたように、私も受賞によって大変励まされました。研究をしていけば苦しいこともたくさんあるのですが、これまで続けてきてよかったと思いました。大変光栄に思っております。

伊藤 早苗は、見所があると思った研究者をずっと励ましており、毎年、多くの若手女性研究者に「論文を書き続けてください」とメッセージを添えた誕生日カードを送っていた

「どうなるかではなく、どうするかが大事だ」

故 伊藤早苗先生の言葉

ました。続けることで道が開けることを伝えたかったのだと思います。

女性研究者の活躍を大学が積極的に支援

久保 ところで、九州大学では女性研究者活躍に向けたさまざまな取り組みを行っています。その一つが、九大方式の「女性枠採用」です。女性に活躍する機会を提供し育成しようとして、他大学に先駆けて2009年度から開始しました。多くの応募者の中から優れた女性教員を10年間で50人採用しました。採用した教員の多くは研究費を獲得したり、表彰を受けたり、顕著な活躍をしています。九州大学の男女別論文業績においても、女性枠で採用された研究者が高いパフォーマンスを挙げていることが確認できました。また、2017年度から配偶者帯同雇用制度を創設しました。優秀な研究者の採用・定着のため、研究者夫婦を採用するもので、日本の大学では初めての制度です。現在2組の研究者カップルが誕生しています。さらに、昨年度からダイバーシティ・スパーグローバル教員育成研修 (SENTANQ) を開始しました。優れた業績を持つ女性、あるいは若手教員に2年間の研修を実施し、最終試験合格後には1段階の昇格を行います。第1期生は10人が参加。2024年度の第6期生まで行う予定です。

三浦 私は、ダイバーシティ・スパーグローバル教員育成研修制度のことを存じ上げなかったのですが、



九州大学 総長
久保 千春

中部大学 特任教授
伊藤 公孝

九州大学 特任助教
三浦 静



九州大学
生体防御医学研究所
器官発生再生学分野
三浦 静 特任助教
1989年福岡県生まれ。2011年佐賀大学農学部卒業。より医学に根ざした研究をしたいとの思いから、同年、九州大学大学院医学系医科学専攻修士課程に進学。同博士課程を経て2018年から現職。2019年、九州大学女性優秀研究者賞(伊藤早苗賞)若手女性研究者部門最優秀賞受賞。



中部大学
先端研究センター
伊藤 公孝 特任教授
中部大学 先端研究センター特任教授。理学博士。1979年東京大学大学院理学系研究科(物理学専攻課程)修了。京都大学助教授(ヘリオトロン核融合研究所研究主幹などを経て現職。1993年仁科記念賞、1996年日本IBM科学賞等を受賞。主な研究分野は、プラズマ物理学、核融合理論、非平衡系の物理。

故伊藤早苗先生 略歴

- 東京大学大学院理学研究科物理学専門課程博士課程修了(1979年)。理学博士。
- 1992年、九州大学応用力学研究所教授に着任。同主幹教授、同極限プラズマ研究連携センター長、同理事・副学長、日本学術会議会員などを歴任。
- 仁科記念賞、日本IBM科学賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、フンボルト賞、英国物理学会フェローなど多数受賞の他、プロヴァンス大学名誉博士号授与。
- 2019年7月18日、死去。67歳没。死没日をもって正四位叙位・瑞宝中級章追贈。



本学元理事・副学長、元名誉教授の故伊藤早苗先生が亡くなられて1年になります。今回は、伊藤早苗先生の功績に敬意を表し、久保千春総長、伊藤早苗先生の夫の伊藤公孝氏、令和元年度伊藤早苗賞受賞者の三浦静氏の3人による座談会を開催しました。なお、伊藤氏は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモートでの参加となりました。

女性の研究者が活躍すれば、必ずその活躍が九州大学のスタッフ全体に広がる。

とても良いシステムだと思いましたが。さらなる高みを目指してさまざまな分野の女性研究者と学ぶのは、大変刺激になると思います。

久保 その他にも、女性研究者の家庭と研究の両立を支援する取り組みも行っています。学内保育園の設置や研究補助者雇用経費の支援、中期に休業する教員への支援教員の採用、出産育児復帰者への研究費支援、ベビーシッター利用経費の支援などです。また、コロナ禍の下、今年4月から在宅勤務制度も導入しま

した。

伊藤 九州大学がジュン・アシダ賞を受賞されていることから、その取り組みの高さがうかがえます。早苗は、女性の研究者や大学院生が活躍すれば、間違いなくその活躍が九州大学のスタッフ全体に広がると信じていました。本日、久保総長のお話をお聞きして私もそう思いました。

久保 ありがとうございます。

伊藤 九州大学は、女性研究者活躍促進の取り組みを10年以上続けてこ

優れた女性研究者を育てる取り組みを今後展開していきます。
(久保)

自分流のスタイルで未知なる研究に挑んでほしいと思います。
(伊藤)

伊藤早苗賞を励ましにこれから研究に邁進していきます。
(三浦)



られ、大きな根と幹を育てられました。ぜひ、今後もフロントランナーとして継続していただきたいと思っています。

独自の発想を大切に 自分流の儀儀で挑む

久保 話は変わりますが、お二人は研究者としてのやりがいをどんなときに感じられますか。

三浦 実は修士過程のときに、博士課程に進むか、就職するか悩んでいました。しかし、参加した学会で自分の発表に対していろんな意見をいただいたり、さまざまな人とディスカッションができたりに面白さを感じ、博士課程に進もうと決意したのです。今もそれが自分のやりがいにつながっていると思います。

久保 伊藤先生はいかがですか。

伊藤 私も早苗も、チャレンジすべき、解くべき問題を決めるときにやりがいを感じていたと思います。私たちは自分たちのことを道遥学派と呼び、問題を見つけたら、よく散歩をしながらディスカッションをしていました。早苗は、発見した問題を自分流で解くことにもやりがいを感じていたようです。早苗の最終講義のタイトルは「マイ・ウェイ」。日本語でいえば「自分が歩んできた道」という意味ですが、「自分の流儀」といった意味もあります。本人の研究者としてのスタイルをうまく表現した洒落たタイトルだなと思いました。三浦先生も「ここが自分の

創意の結晶だ」と思うオリジナルの発想を大切に、研究を続けられるといいと思いますよ。

三浦 ありがとうございます。

変化をチャンスと捉え、一歩踏み出す勇気を

久保 最後に、九州大学の学生や研究者の皆さんにメッセージをお願いいたします。

伊藤 先ほど私は、賞が人を育てると言いましたが同時に、人が賞を育てるとも言えます。ぜひ九州大学の女性研究者の皆さんに活躍いただきたい、伊藤早苗賞を育てていただければと思います。また、人を育てるには、人の優れたところを見抜いて伸ばす伯楽の存在が重要です。九州大学での伯楽の活躍も期待しています。

三浦 私の研究室にもたくさん学生が在籍していますが、最近、進路に迷っている学生が多いようです。研究者の道に進むべきか、就職すべきか、考え過ぎて不安になっている学生もいます。そんなときは悩みや不安に向けているエネルギーの半分を、一歩踏み出す勇気に変えてほしいと思います。研究は仮説を立てて進めますが、その途中でゴールとは違う道に進んでしまうこともあります。むしろ、そちらの方がいいかもしれません。たとえ違う道に進んだとしても面白い発見がたくさんありますし、私はそのまま進んでもいいと思うのです。自分で選べば納得できるはずですから。場合によっては



伊藤早苗賞表彰式

Kyudai Knowledge

女性研究者、女子大学院生の表彰(伊藤早苗賞)

優秀な女性研究者の育成を目的として「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を2018年度に創設し、人文・社会学系、理工学系、生命科学系の3分野で、優れた業績を上げた若手女性研究者、女子大学院生を表彰しています。本賞の設立に尽力され、運営経費にも多大なご協力を頂きました元本学理事・副学長、名誉教授の故伊藤早苗先生のご功績に敬意を表し、2019年度から本賞の名称を「伊藤早苗賞」とすることが決まりました。受賞された方々の今後のご活躍が大いに期待されます。毎年秋のアカデミックフェスティバルで表彰式が執り行われます。

1、2年立ち止まってもいいと思います。長い人生の中ではたいした時間ではありません。勇気を出してチャレンジすれば、きっと大きく成長できると思います。

久保 貴重なご意見ありがとうございます。現在、新型コロナウイルス感染症によって社会が大きく変化しています。大変厳しい状況にありますが、これまでも人類は大きな危機に直面しながらも、それを乗り越えてきました。私はよく学生に3C (Challenge・Change・Creation) の大切さを話していますが、変化をチャンスと捉えて挑戦し続けてほしいと思います。本日はありがとうございます。



この座談会は、2020年6月2日、本学推本講堂特別応接室で行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ソーシャルディスタンス確保のうえ取材を行っており、また、環境をまたぐ移動の自粛要請を鑑み、伊藤公孝特任教授にはリモートでご参加いただきました。

九州大学では女性研究者の活躍促進、及び活躍可視化のため、様々な取組みを行っており、科学技術振興機構が昨年創設した「輝く女性研究者活躍促進賞（ジュンアシダ賞）」の第1回受賞機関となりました。主な取組みを紹介します。



ジュンアシダ賞表彰式(2019年11月)

女性研究者が活躍する大学へ!

女性研究者シンポジウム

女性研究者をエンカレッジするあるいは研究力を向上させるためのセミナーや、学内女性研究者が一堂に会する女性研究者シンポジウムを開催しています。



女性研究者シンポジウム(2018年3月)

ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)

2019年度からはダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修を開始しました。これは優れた業績のある女性あるいは若手教員に国際通用性のある研究教育スキルを身につけて世界と伍して戦える人材になるための2年間の研修を実施し、最終試験合格後に1段階の昇格を行うものです。現在第1期生10人が研修に参加しており、2020年7月に第2期生10人が選定されたところです。2024年度の第6期生までを予定しています。



SENTAN-Q研修の様相(2020年2月)

九大方式の「女性枠」採用

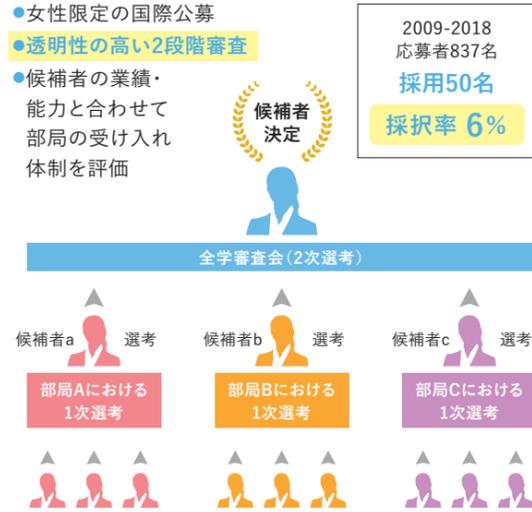
「優遇ではなく機会を！」

九州大学は「女性を優遇するのではなく、女性に活躍する機会を提供し、育成する」という基本方針の下、2009年度から「女性枠設定による教員採用・養成システム」を開始しました。女性限定の国際公募で広く候補者を募り、透明性の高い2段階の審査方式で、優れた

「女性教員数が大幅に増加」

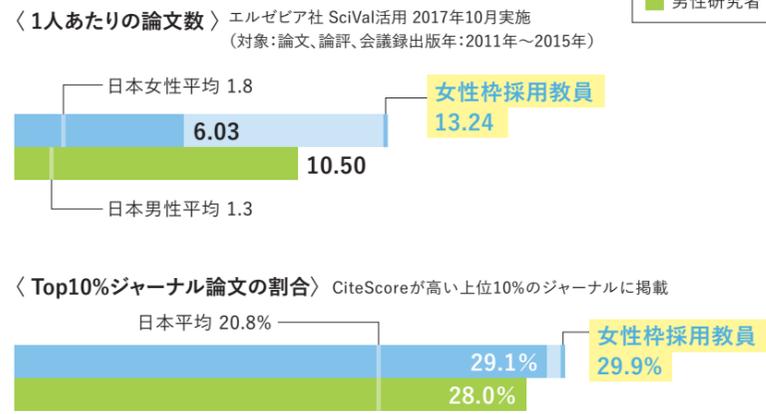
この「女性枠採用」を機に女性教員の採用も増え、2009年当時九州大学の女性教員比率は8%台でしたが、2019年度には14%を超え、人数も179人から334人と増加しています。

女性枠設定による教員採用・養成システム



女性優遇ではなく、**活躍する機会を提供し育成する**

九州大学 男女別論文分析結果



データ出典:SciVal(Elsevier)
※日本平均値:Gender in the Global Research Landscape, Mar 2017, Elsevier

出典:ポリモルフィアVol.3,p33(2018年3月)
ISSN2424-1113

九州大学 男女共同参画推進室
〈分析:九州大学 IR室〉

「無意識のバイアス」の克服

オランダの学術論文出版社エルゼビア社が2017年に発表した世界の男女別論文分析を、九州大学でも同様の方法で実施し、かつ上述の「女性枠」採用者も分析しました。その結果論文の質・量ともに優れてい

女性研究者の両立支援

九州大学では、出産・育児や介護などのライフイベントとの両立がしやすい環境を提供するため、支援や制度を整備しています。



ここでは主に女性研究者の活躍促進、可視化に特化した取組みを紹介しました。このほかにも中高生、大学生、教職員の皆さんへの取組みを行っています。詳しくはホームページを「確認してください。」

(<http://danjyokuyushu-u.ac.jp/>)

躍動

Move On!

九州大学 PLANET-Q

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。タイトルは取材に協力した各サークルの代表者が書いています。個性あふれる手書き文字に、サークル活動への熱意を感じます。



仲間との情熱を ロケットに乗せて

——ここでしかできない体験を共に——

ハイブリッドロケット、小型模擬人工衛星：宇宙開発への情熱をロケットに乗せ、空高く打ち上げる。今、ここでしかできない貴重な体験をしよう。躍動119号では、学生が宇宙開発に触れられる九州で唯一のサークル、PLANET-Qの活動をご紹介します。



活動内容をおしえてください。

ハイブリッドロケットの開発、小型模擬人工衛星(CanSat)の開発、モデルロケットの作成を行っています。ハイブリッドロケットは機体全長3m、高度数kmの大型ロケットです。また、小学生向けに企業と共同でモデルロケット教室や紙飛行機教室を行っています。

入部のきっかけを教えてください。

見学に行った際、同じ学科の先輩が親身になって活動についてのお話をしてくださり、興味を持ちました。何よりもづくりが楽しく、ここで活動したいと思えました。

九州大学PLANET-Qの魅力をおしえてください。

なんとといっても、大学生の時期に宇宙開発に取り組めることです。学生のうちにロケットや人工衛星を開発し、実際に運用できるのは九州内ではPLANET-Qだけです。また、



皆で1つのロケットを作っていくことでメンバーの仲も深まり、信頼できる友人を作ることができます。縦と横のつながりはどうですか。

ハイブリッドロケットプロジェクトは、学年ではなく各部員の興味に応じて構成班、電装班、燃焼班、シミュレーション班に分かれ、皆で1つのロケットを開発するため、縦と横のつながりはとても強いのです。また、小型模擬人工衛星CanSatの開発は各学年でメンバーを集め、プロジェクトを行うため、横のつながりも強くなります。

これからの活動をしていく上での目標を教えてください。

8月に開催される能代宇宙イベ

ントで現在開発中のハイブリッドロケット(Felix-Prints)を打ち上げることで、CanSat競技で0mゴールを達成することです。CanSat競技では、高度30m前後からCanSatを投下し、あらかじめ指定した目標地点のどれだけ近くに到着できるかを競います。0mゴールとは、目標地点近くではなく目標地点に到達しよう、という意味です。

特に皆さんに知ってほしいPLANET-Qの

アピールポイントがありますか。

PLANET-Qは工学部以外に

も、理学部、共創学部、経済学部等、様々な学部学科のメンバーで構成されています。また、男子部員だけでなく女子部員もいます。学部学科、性別に関係なくものづくりと宇宙開発に興味がある人は大歓迎です！

読者の皆さんへメッセージをお願いします。

ものづくりが好きな皆さん、宇宙開発に興味がある皆さん、PLANET-Qと一緒にロケットを作り、九州大学PLANET-Qでしかできない貴重な体験を一緒にしましょう！



代表
今田 衣美さん
(理学部3年)

【取材協力】

Focus

「能代宇宙イベント」

秋田県能代市で毎年8月中旬に行われる日本最大規模の学生/社会人によるロケット打上及び自律ロボット制御のアマチュア大会です。

「種子島ロケットコンテスト」

3月に行われ、手作りのモデルロケットや衛星機能モデルを開発・製作し、打上げること物作りの奥深さ、面白さを体現するとともに、宇宙開発の普及啓発や地域の活性化を目的としたコンテストです。

「伊豆大島共同打上実験」

毎年11月の週末に2日間、3月に1週間ほど実施されている、全国の大学生によるハイブリッドロケットの打上実験です。

Data

- ◎部員数:27名
- ◎活動日:部員によって様々なので、自分にあった活動頻度を探せます。週1、2回の人も、毎日活動している人もいます。
- ◎活動場所:ウエスト4号館3階ウッドスペース
- ◎問い合わせ先 Twitter:@QU_PLANETQ
Instagram:qu_planetq(九州大学PLANET-Q)
ホームページ:https://planet-q.jimdofree.com/
アメーバブログ:https://ameblo.jp/plan3t9/
YouTube:https://www.youtube.com/user/KUPLANETQ

この記事は広報室学生スタッフが制作しました。



坂元 渚
(農学部4年)



林 萌英
(理学府修士1年)



重永 日向子
(共創学部3年)



谷口 愛実
(共創学部2年)

Facebookページ <https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student/>

Challenge! 課外活動

他にもたくさんの
団体が活動してます!
詳しくはこちらから!



王道から個性派まで多種多様な課外活動が

…文化系

…体育系

揃っている九州大学!その一部をご紹介します。



ロック研究会 (Be-Rock(ビーロック))

Be-Rockは九州大学公認の、学内最大規模のバンドサークルです。幅広いジャンルのバンドが活躍しており、たくさんの音楽に触れて新しいバンドに出会えることが最大の魅力です! また、ライブを自分たちで一から作り上げていくことも私たちのサークルの魅力の一つです。会場の設営や音響・照明などの演奏以外のことを経験することができます。

楽器経験者・初心者問わず、とにかく音楽を楽しみたい人なら大歓迎です!



スキー部

大学生活で何か新しいことに打ち込みたい、大切な仲間を作りたい、そんなことを考えているあなた!! ぜひスキー部と一緒に熱い大学生活を送りませんか?? スキー部では大学からスキーを始めた人がほとんど! スポーツ経験がある人もない人もみんなで一緒に上手くなります! 冬には北海道や長野県で練習・試合もあり、そこで見られない絶景、試合でしか得られない大きな感動や一体感が盛りだくさんです! 夏学期からは新歓スキーやローラースキー体験会などのイベントも企画していますので、興味があればぜひ顔をだしに来てください。



馬術部

こんにちは!! 九州大学馬術部です。僕たちは現在馬5頭と部員19人で活動しています。厩舎は、糟屋郡の九大付属農場にありますが、先日伊都キャンパスに移転が完了しました!! 活動としては分担して毎日馬のお世話と乗馬をし、個人としては週3~5で行っています。大会の競技としては障害の高さやタイムを競う障害馬術(写真)や、いかに正確かつ美しく運動させるかを競う馬場馬術があります。またSA馬場とSA障害という資格を取得するのがまず1つの大きな目標です。馬との信頼関係を築き、人馬一体を目指す日々を送ってみませんか? 是非一度気軽に体験乗馬に来て下さい! かわいい馬たちとお待ちしております!



フィルハーモニーオーケストラ

九大フィルは福岡で活動する学生オーケストラです! 年2回ある定期演奏会に加え、部内発表会や依頼演奏に向けて日々練習を行っています! 部員は約80名で、九州大学のほか西南学院大学、福岡女子大学など様々な大学の学生も所属しています。経験者はもちろん、初心者も大歓迎です! 楽器が好きな人、音楽が好きな人、そうでない人もぜひ一度新歓イベントにお越しください! 九大フィルで充実した大学生活を送ってみませんか?



障害者支援 ピア・サポーター学生 (PS学生)

私たちはキャンパスライフ・健康支援センターインクルージョン支援推進室の指導の下、障害・支援について学び、アートやバリアフリー、ユニバーサルデザインについてなど、障害者支援にかかわる活動を行っています。PS活動に加えて一定の条件を満たすと、AL試験受験資格も得られます!

週一回の定例会と、班ごとの活動があり、現在20以上の活動班が存在しています。活動の詳細はTwitter等でも紹介しているので、是非ご覧ください!



チアリーディング部 (ETOILES(エトワルズ))

チアリーディングとは、ただ笑顔で可愛くダンスをしたり、ポンポンを振ったりしているだけではありません。組体操のようなスタunts、ダンス、ジャンプを含む専門的な技術を組み合わせた2分30秒の演技をします。この2分30秒のために、日々笑ったり泣いたりたくさんの努力を重ねます。

チアリーダーは全員が主役で、多くの人に元気を与え、私たち自身も非常に大きな達成感・充実感が得られます。部員は全員初心者ですが、練習を重ねて全国大会にも出場しています。初心者・男子、大歓迎です! ぜひ最高の仲間と充実した大学生活を送りましょう!



ヨット部

我々ヨット部は、全日本インカレでの「日本一」を目指して日々活動しています! スポーツで、大学から始めて日本一を狙えるものはそうありません。しかし、我々ヨット部は創部93年の歴史があり、七代戦9連覇など全国でも屈指の強さを誇ります。

60人の部員が、選手・マネージャー・学年問わず共通の高い目標に向かって切磋琢磨し、そこから本当にかけがえのない絆が生まれます。まだ見たことのない景色を、我々と一緒に見てみませんか? 選手・マネージャー問わず、我々と共に戦えることを、心から楽しみにしています!



陸上競技部

九大陸上競技部では、自己記録を出したい、楽しく走りたい、勝たいたいなど様々な目標を共有しつつ、チーム一丸となって切磋琢磨しています。活動は月・水・木・土曜日に伊都グラウンド・平和台・田尻グラウンドにて福岡女子大学と合同で行っております。経験の有無は問いません。女子部員も活躍しており、またマネージャーも大募集中です。InstagramやTwitterで情報発信しています! 新入生の皆さんをお待ちしています、是非一度見学に来てください。



アコースティックギターサークル (unplugged(アンプラグド))

アンプラグドでは主に弾き語りや、アコースティックギターだけを使って演奏するソロギターなどを行っています。ジャンルを問わず各々が好きな曲に挑戦できます。ギター経験者は勿論、部員の3分の2が大学から弾き始めた人で、初心者でも講習がしっかりしているので安心です! 部員の仲がとても良く(これは本当に自慢です)、いい意味で先輩・後輩の壁が薄いので、学年の差を超えて仲良くできます。ギターをもって街のライブカフェに行く世代を超えた音楽仲間

ができることもあります。記事を読んで頂いている皆さんと音楽ができる日を部員一同楽しみにしています!



法律相談部

法律相談部は年に数回行われる法律討論会の準備や日々の勉強会を主な活動としています。活動は毎週土曜日、中央図書館の学習室で行っており、空きコマ等で自主的に集まることもあります。1年生は、3年生が教える憲法、民法、刑法の勉強会への参加と11月に福岡大学で行われる七隈検討会への参加が主な活動となります。学年の垣根を越えて仲の良い楽しいサークルです。どんな方でも学部問わず歓迎いたします。

この記事は
広報室学生
スタッフが
制作しました。



陣内 未来
(教育学部3年)



財前 祐里香
(21世紀プログラム4年)



田中 茜里
(教育学部3年)



田中 大稀
(法学部3年)

※現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての

団体は通常とは異なる形態で活動しています。

増田 朋和
間世田 勇作
侯江 遥貴
又吉 幸輝
松井 清之
松尾 英貴
松岡 弘憲
松木 千恵
松木 徹浩
松木 良介
松添 直隆
松永 信博
松延 誠
松原 武志
松本 葉子
馬奈木 弘一
丸山 貴大
丸山 初之助
水上 深
水野 裕子
三野 武史
南谷 朝子
三宅 浩志
宮崎 澄雄
宮崎 裕子
宮崎 聡
宮武 博子
深山 治
関 丙珠
村上 逸朗
村上 陽一
村上 義孝
村松 毅
本屋敷 恵美子
安田 信也
屋比久 友貴
山内 彰雄
山口 知奈美
山口 浩史
山下 力
山下 典子
山下 凌征
山下 隆弘
山田 元樹
山田 南人
山野 茂

九州大学基金

— 未来を切り拓くリーダーの育成 —



椎木講堂

寄附者
ご芳名

九州大学基金の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。本号では、令和2年1月20日から令和2年4月3日までに寄附申し込みいただいた皆様のご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

〔 支援者の皆様 〕

企業・団体など

一般社団法人糸島市観光協会
ラスティックバーン
糸島市商工会
シヤロム美容室 南風台店
糸島市商工会青年部
糸島バーベキューのろ高原
有限会社カノオ醤油味噌醸造元
一般社団法人糸島青年会議所
株式会社牛原公善社
株式会社 Hayt Paint
ケイ・パッケージ株式会社
重元自動車
株式会社新光仮設
株式会社セービングカンパニー
株式会社西部保険
土地家屋調査士入江事務所
Tus
西合同事務所
有限会社原住建
株式会社フレカワ創美
株式会社へいせい
前原相互印刷株式会社
有限会社緑の農園
やなぎ司法書士事務所
令和理想株式会社
イロスロード伊都商店連合会
糸島レストラン AMOUR (アムール)
有限会社一番うどん
株式会社オレック
九州電力株式会社
九州大学研都市地区商業連盟
古賀税理士事務所
株式会社久原本家グループ本社
合同会社ケイエムシー
株式会社KLD
在韓国江原大学九州大同門
在韩国九州大学總同窓會
サンケイ化学薬品株式会社
ソーセミンコダクタマニフアクチャリング
株式会社東亜産業
株式会社ファビリス
株式会社富士ビー・エス

公益財団法人吉田育英会
ほか 匿名希望2団体 (計39企業・団体)

個人

高田 哲助
(一般社団法人
糸島市観光協会)
緒方 孝光
(一般社団法人
糸島青年会議所)
原田 康平
(一般社団法人
糸島青年会議所)
合六 雅亮
青木 孝夫
青木 俊一
秋山 伸一
浅井 陽子
浅海 浩
浅山 朝美
阿南 光政
荒木 斉
有村 秀一郎
安藤 貴文
安藤 千恵子
井 絵理子
李 振泰
李 南勳
李 柱
生田 義知
池田 建児
池田 みき
池田 康彦
池田 信義
石田 航太郎
石田 真也
石橋 由美子
磯谷 俊文
一瀬 歩
伊藤 健一
伊藤 早苗
井上 研史
井上 善仁
今井 文紀
今里 悟之
今村 兼治

金子 真治
金丸 敬子
上村 勝彦
蒲生 敏夫
蒲地 晃
嘉屋 有哉
刈屋 雅雄
川井 崇
川島 綱
河原 正裕
川本 憲一
菊川 律子
北里 勝利
木原 孝治
木本 太
客野 寿誠
清島 保
久島 紀彦
黒木 卓也
桑元 勉
元 永三
小池 寛
小泉 真凜
河野 光子
神谷 光志
古閑 日出見
古賀 真
古賀 芳秋
小島 寛規
児玉 弥奈子
後藤 雅彦
後藤 優子
小林 玉季
小森 晶
権藤 賢二
雑賀 伸一
齋藤 節夫
齋藤 秀三郎
細波 隆
佐伯 幸則
境 哲男
坂岡 庸子
坂本 篤史
坂本 雄一
酒見 史博
笹川 あゆみ

笹川 隆吉
佐々木 勝吉
佐藤 哲郎
佐藤 重文
佐藤 直
汐月 弘明
重藤 寛史
重松 喬
篠田 浩太郎
篠田 秀登
篠田 秀太郎
柴北 泰秀
柴田 和彦
芝田 雄一
嶋岡 隆人
清水 政彦
清水 隆政
下國 士郎
上甲 真大
松原 務
鄭 宰昊・劉 一寧
神領 正行
洲 雅明
曾里 幸雄
孫 仁俊
孫 大翔
大長 和保
高岡 佑弥
高次 美貴
高橋 昭吾
高橋 由衣
高山 昌照
西河 宏文
西田 俊和
西村 明
西山 重和
西山 玲児
野村 善幸
教重 涼子
田中 誠一郎
田中 節男
田中 雅臣
田中 雅紀
田中 陽子
田邊 泰章
田邊 吉信
谷口 誠一
谷下 誠一

田山 信至
崔 洛三
崔 永旭
千代 愛
鄭 允榮
鄭 燦
築山 能大
堤 八恵子
津村 忠幸
寺本 徹
上井 啓郁
藤 榮
土岐 圭子
常盤 雅史
豊原 昌樹
豊原 昌高
長永 早苗
中尾 敏明
中尾 久子
中尾 一成
長澤 邦彦
長友 邦彦
長野 伸一
中野 伸男
永水 伸男
中本 初男
中本 弦希
中山 順一
中山 浩
中山 涼太
名倉 涼太
鍋島 馨
橋崎 光雄
西川 一哉
西川 俊介
西村 明
西山 重和
西山 玲児
野村 善幸
教重 涼子
田中 誠一郎
田中 節男
田中 雅臣
田中 雅紀
田中 陽子
田邊 泰章
田邊 吉信
谷口 誠一
谷下 誠一

服部 彰
羽野 曉
濱崎 将弘
濱田 繁志
早川 勝彦
林 風磨
早田 富久子
早野 裕文
原 英生
原 佳宏
春山 康久
韓 秉柱
半田 陽子
萬代 徹
日置 保次
檜垣 祐香
東 ゆみ
東出 公一郎
日高 美優
百武 誠
廣木 智恵
廣谷 勝
深田 勝敏
深見 忠伸
吹上 元基
福原 秀郎
藤 素子
藤井 裕聡
藤井 久美子
藤井 翠乃亜
藤崎 進司
藤田 真治
藤田 正樹
藤田 昌弘
藤中 玲二
藤原 京子
藤原 典子
古城 一省
古谷 敏昭
古谷 敏昭
堀内 博文
堀内 芳彦
本田 学
本田 学
前田 榮子
真壁 秀典

山川賞 採択者の声

TEDxの輪を広げるために

共創学部3年 足立 吏玖 (令和元年度受賞)

山川賞受賞が決まった昨年10月から現在までに、いくつかのプロジェクトに携わりました。まず、九州大学で世界的なプレゼンテーションイベントであるTEDライクなイベントを開催する初の試みとなるTEDxKyushuUを昨年12月8日に九州大学伊都キャンパスの稲盛財団記念館において、無事開催することができました。今回は、学生を含む5名のスピーカーによる、それぞれ異なる分野の「広める価値のあるアイデア」を発信する場を多くの人に提供することができました。

当日の来場者は、一般と学生それぞれ半分ずつというバランスの取れた構成となり、多くの異なる背景を持った人が交流し、アイデアを交換する場を提供するという目的は達成できたと考えています。また、2019年はTEDxが10周年ということもあり、台湾で開かれたアジア圏のTEDxに携わる人々が集まるTEDxWeekend Taipeiにも参加しました。日本以外にも多くの国や地域で行われているTEDxイベントに関わる人々との対話は非常に刺激的でした。

そして現在は、福岡市の有志によって開催予定のTEDxFukuokaを始めとし、他のチームへの参加を通してTEDxの輪を広げるために活動を続けています。



学生スピーカーとスタッフ (最前列左から2番目が本人)



ワークショップの様子

海外留学支援 採択者の声

地球資源グローバル人材育成のためのPBL型短期派遣プログラム

工学部4年 廣瀬 太一 (令和元年度支援)

本プログラムに参加し、大きな成果として感じていることは、専門知識への見識が深まったこと、英語力が向上したこと、大学で学んだ知識を実践できたことの3つです。

今回訪問したインドネシアのポンコール金山では、実際に鉱山の内部を見学し、採掘から生産まで一連のプロセスを見学しました。また見学だけでなく、岩盤工学について講義を受けたり、支保の安定性を検討したりする活動も行いました。講義を受けた内容は既に九大で履修済みのものですが、別の観点で説明を受けたこと、英語で説明を受けたことにより、語彙力を含めた専門知識への見識が深まりました。

坑道内部においては崩落を防ぐため“支保”という道具が使われます。様々な種類の支保の中から、支保の特性と岩盤の状態を考慮し、現地のエンジニアと最適な支保を選定するディスカッションを英語で行いました。このディスカッションを通じて、大学で学んだ知識を実践でき、自身の英語力を高めることができたと考えています。それらに加えて、鉱山開発のスケールの大きさを知ることができました。特に発破による爆風の衝撃と、その時感じた感動は一生忘れられません。

これらの活動は九大基金による支援なしには行えませんでした。末筆ながら、九大基金の寄付者の皆様へ厚く御礼を申し上げ、感謝する次第です。



坑道の発破を行う前に現地技術者と (手前が本人)



労働者が毎朝参加するSafety-talkと呼ばれるミーティング

同窓会に行こう

九州大学同窓会連合会は、部局同窓会と地域同窓会の連合体組織として、同窓会の横断的な活動や組織作りを支援し、同窓生相互の交流と親睦を深めるとともに、九州大学と同窓生の情報交換や連携協力を緊密にし、九州大学の発展と学術の振興に貢献することを目的として活動しています。

会員同窓会からのお知らせ

筑波博朋会

〈連絡先〉Email: q.hakuho@gmail.com

博朋会は、九州大学又は大学院に学生又は教職員として在籍したことがあり、茨城県南に居住又は勤務する者若しくは居住又は勤務したことのある者の親睦を図ることを目的に昭和59年に結成された同窓会支部です。毎年3月の第1週土曜日に総会・懇親会を開催しています。お気軽にご参加下さい。まずはメールにてご連絡ください。

愛媛同窓会

〈連絡先〉事務局長 緒方哲朗
Tel: 089-905-7823 Fax: 089-958-5162
Email: quehimejimu@gmail.com

九州大学愛媛同窓会では、2020年6月27日(土)に定例総会と懇親会を予定しておりましたが、延期となりました。秋以降の開催を計画しています。また、愛媛県では北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大の七大学の合同懇談会も立ち上がりました。就職や仕事のことなど、なんでも相談できる同窓会を目指しています。皆さんの参加をお待ちしております。

宇部・山陽 小野田九友会

〈連絡先〉事務局長 松井洋明
Tel: 090-1010-3348
Email: kyunemas@c-able.ne.jp

当会は平成20年7月に発足しました。多くの団塊世代が加わり、新たな活動を模索しながら、日本を支えてきた、また、支えている世代との共同・協同による行動が、元気な地域の発展につながることを期待しています。会員の皆様のご協力をいただきながら地域の活性化にも貢献できる団体へと発展させたいと思っています。

福岡 同窓会

〈連絡先〉
Tel: 092-802-2156 Fax: 092-802-2149
Email: doso-fukuoka@jimu.kyushu-u.ac.jp

本会は、九州大学の所在する福岡において、全学的な卒業生及び修了生等の親睦を図り、九州大学の発展に寄与することを目的として活動しています。例年、九州大学とアカデミックフェスティバルを共催しています。

九州大学同窓会連合会からのお知らせ



九州大学同窓会連合会は、平成11年に設立されました。現在、部局同窓会16団体、地域同窓会24団体の計40団体に加盟いただいております。総会を開催(昨年度実績:年2回)し、同窓会同士の情報交換の場を設けております。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

加盟をご検討の同窓会の方は、以下のお問い合わせ先へのご連絡をお待ちしております。



加盟団体一覧(計40団体)

【部局同窓会】 文学部同窓会、教育学部同窓会、法学部同窓会、経済学部同窓会、理学部同窓会、医学部同窓会、歯学部同窓会、薬学部同窓会、工学部同窓会、九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学同窓会、農学部同窓会、地球社会統合科学府同窓会、人間環境学府同窓会、数理学府同窓会、システム情報科学府同窓会、総合理工学府同窓会

【地域同窓会】 在仙九大会、筑波博朋会、東京同窓会、東海九大会、関西同窓会、宇部・山陽小野田九友会、愛媛同窓会、福岡同窓会、唐津地区同窓会、筑後地区九州大学同窓会、ありあけ九大会、大分同窓会、熊本同窓会、宮崎県在住九州大学同窓会、ひむか松原会、鹿児島同窓会、沖縄県九州大学同窓会、在韓国九州大学同窓会、北京宮崎会、在中国九州大学同窓会、華人同窓会、台湾同窓会、学生寮同窓会、女子卒業生の会「松の実会」

同窓会の情報は
こちらへ!

九州大学同窓会連合会ウェブサイト

<https://doso-rengo.jimu.kyushu-u.ac.jp/>

九州大学同窓会連合会



お問合せ

九州大学同窓会連合会事務局

(総務部同窓生・基金課同窓生連携係)
TEL: 092-802-2156

九州大学『新型コロナウイルス対策学生支援基金』へのご支援のお願い

世界規模で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が爆発的に拡大する中、皆様におかれましては、不安な日々をお過ごしのことと存じます。このような状況において、学生の中には、新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の方々の経済状況の深刻化やアルバイトの休止等で収入が減少するなど、生活に大きな影響が生じている学生が大勢います。

九州大学では、学生が少しでも安心して学業に励むことができるよう、国からの特別定額給付金や日本学生支援機構による奨学金の緊急支援に加え、本学独自の支援策として、「緊急授業料免除」とアルバイト休止などにより影響が生じている学生に対して、九州大学基金その他の学内の財源を活用した「緊急学生支援金」として、経済的支援を必要としている学生(留学生を含む学部生、大学院生等)の申請に基づき、一人3万円の支援金を給付することとしました。

しかしながら、学生の中には上記支援のみでは学業を継続することが困難で退学を考えざるをえない学生もいます。これらの学生に対しては、学内の財源等の活用による更なる支援を検討しているところですが、多くの学生を支援するための財源としては十分とはいえません。

つきましては、学生が経済的な理由で学業を断念することがないよう、九州大学基金内に新たに表題の基金を設け、学内教職員や同窓生、また、日頃より九州大学とご縁をいただいている皆様にご支援をお願いすることといたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響で出費多端な時期と存じますが、未来を支える若者のために是非ご賛同くださいますようお願い申し上げます。

皆様の健康と安全、そして安心して平常の生活ができる日が来ることを祈念いたします。



令和2年5月14日

九州大学総長 久保 千香

九州大学『新型コロナウイルス対策学生支援基金』

募集目的

本基金は、新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の方々の経済状況の深刻化やアルバイトの休止等で収入が減少するなど、生活に大きな影響が生じている学生(留学生を含む)のうち、国からの特別定額給付金や日本学生支援機構による奨学金の緊急支援、また、本学独自の「緊急授業料免除」や「緊急学生支援金」のみでは学業を継続することが困難な学生に対して経済的支援を行うことを目的とします。

※支援の具体的な内容については、大学へご一任ください。

募集金額

一口1,000円以上 ※複数口のご寄附もお受けいたします。

募集期間

令和2年5月14日～令和3年3月31日(予定)

寄附の方法

●ご寄附にあたっては「寄附目的」の欄で、使途特定寄附の『**新型コロナウイルス対策学生支援基金**』を選択ください。

①クレジットカードによる決済

九州大学基金Webサイトの「クレジットカード決済専用寄附申込みページ」からお申込をお願いいたします。

②指定金融機関からの振込

本学所定の振込用紙を使用し、指定金融機関からお振込いただく場合は、振込手数料はかかりません。

③指定金融機関以外の金融機関、またはATM、インターネットバンキングからの振込

「九州大学基金寄附申込書(*)」を総務部同窓生・基金課へ送付いただいた後、金融機関、ATM、インターネットバンキングから下記のいずれかの指定金融機関の口座へお振込みをお願いいたします。恐れ入りますが振込手数料はご負担ください。

*:金融機関、ATM、インターネットバンキングからのお振込みは、お名前、お振込金額のみの情報となり、領収書をお届けすることができません。「九州大学基金寄附申込書」を九州大学基金Webサイトよりダウンロードしていただくか、または下記の連絡先にお問合せのうえ、E-mail・FAX・郵送のいずれかに総務部同窓生・基金課まで送付くださいようお願いいたします。

指定金融機関	支店等	口座種別	口座番号
ゆうちょ銀行	一七九店	当座預金	01700-6-66037
三井住友銀行	福岡支店	普通預金	7464580
三菱UFJ銀行	福岡支店	普通預金	0482873
福岡銀行	箱崎支店	普通預金	2342087
西日本シティ銀行	箱崎支店	普通預金	2086349

※口座名は、いずれも『国立大学法人九州大学(九大百年)』です。

税制上の 優遇措置

国立大学法人九州大学への寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となります。また、法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄附金として指定されています。

控除を受けるためには、本学が発行する「寄附金領収書」を添えて、所轄税務署に確定申告を行う必要があります。

ご寄附への 謝意表明

①寄附者芳名の掲載

九州大学基金Webサイト及び九大広報にご寄附いただいた方のお名前・団体名を掲載いたします(匿名希望者を除く)。

②寄附者銘板への掲載(一定額以上のご寄附)

高額なご寄附に対し、ご寄附いただいた方の意向を踏まえ、本学伊都キャンパスの椎木講堂に設置しています「九州大学基金寄附者銘板」にご芳名等を記して末永く顕彰させていただきます(匿名希望者を除く)。

③九大会員証の発行(一定額以上のご寄附)

一定額以上のご寄附いただいた方には、九大会員として顕彰し、有効期限5年間の九大会員証を発行いたします。

九大会員には、学内外で利用できる九大会員向け特典をご用意しています。

九州大学基金・
九大会員に関する
お問い合わせはこちら

九州大学総務部同窓生・基金課

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL: 092-802-2150
E-mail: k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学基金Webサイト

九州大学基金
<https://kikin.kyushu-u.ac.jp/>





インドネシア同窓会

ジャカルタおよびその近郊の在住のOBにて、半年に一度、旧帝国大学7校が参加する七帝戦ゴルフが開催されています。わが九大は、記念すべき第一回に優勝を飾り、その後第8回・第9回と2連覇を果たすも、他校の強力な追い上げもあり、直近では上位につけながらも栄冠からは遠ざかっておりました。

2020年3月1日(日)に行われた第15回大会においては、7大学総勢83名が参加しました。

九大は田中正道ゴルフ部長(平成6年・法学部卒)のもと、日ごろの鍛錬による圧倒的な実力を発揮し、見事6大会ぶり4度目の優勝を果たしました。学生歌「松原に」を声高らかに歌い上げつつ、同窓生の絆を深めました。

大会後、新型コロナウイルスの影響が大きく、苦勞と不便の度合いを増しておりますが、九大在学中に鍛えた心と、はるか南の地で知り合った仲間と困難

を乗り越えるべく活動しております。今後も友好関係も深めつつ、母校の良き名を轟かせてまいります！



優勝トロフィー贈呈の様子



集合写真

インドネシア同窓会 幹事長 東山陽介(平成14年・農学部卒) <連絡先> E-mail:viayos25@gmail.com

「松の実会」令和元年度 総会・講演会・懇親会

令和2年2月2日(日)、九州大学女子卒業生の会「松の実会」令和元年度 総会・講演会・懇親会が八幡閣本店において行われました。昭和30年度卒業生から平成29年度卒業生まで、遠くはドイツを始め、国内外から11学部100名を超える参加者が集まりました。令和元年度から2年間、運営は薬学部の担当となり、冒頭の挨拶として女賀信子会長(昭和42年・薬学部卒)が、松の実会の発足に至った昭和42年の薬学部における女子入学規制問題から今日に至る松の実会の経緯と、今後の松の実会の方向性について述べました。

講演会では、大分香りの博物館館長の江崎一子氏(昭和45年・薬学部卒)が「香り文化の発信拠点」観光、地域振興に貢献する博物館を目指して」をテーマにご講演されました。懇親会のオープニングでは、九州大学混声合唱団が「松原に」春の讃歌」など懐かしい曲を美しい歌声で披露してくれました。その後、九州大学理事の山縣由美



女賀会長の挨拶



参加者で記念撮影



九州大学混声合唱団による合唱

子氏(昭和56年・文学部卒)より御挨拶、九州大学福岡同窓会会長の貫正義氏(昭和43年・経済学部卒)による乾杯御発声の後、歓談し交流を深め、最後は次年度の再会を約束して全員での記念撮影となりました。

松の実会理事 松末綾(平成8年・薬学部卒)

<連絡先>九州大学女子卒業生の会「松の実会」事務局 E-mail:matunomi@abelia.ocn.ne.jp

関西同窓会公開講座・新年賀詞交歓会

令和2年1月20日(月)ハートホテル北梅田にて、関西同窓会公開講座・新年賀詞交歓会を開催しました。

公開講座では、応用力学研究所の岡本創教授をお招きして「雲と気候変動予測」能動型地球観測センサーによる雲研究の最新展開」と題し、気候変動予測の不確定要因の7割を占める雲の生成や消滅に関連する非常に複雑なメカニズムが観測機器自ら電磁波を出す能動型センサーを用いることで分かるようになった話や、先生も携わっている2022年打ち上げ予定の地球観測衛星によってさらに詳細な雲特性の理解と気候変動や極端現象の予測技術向上が期待されていることについてご講



公開講座の様子

演いただきました。今回の講演も多くの方々にご参加いただき、気象について理論的に考えきつかけとなった等の感想が寄せられました。

続く恒例の新年賀詞交歓会では、北野嘉文さん(昭和57年・経済卒)と朱雀愛海さん(平成31年・経済卒)のお二人の司会で始まり、中野健二郎会長(昭和46年・経済卒)のご挨拶のあと、山縣理事から九大の近況等を伺いました。佐藤廣士副会長(昭和45年・工学研卒)の乾杯のご発声とともに一気に賑やかとなり、初参加者による自己紹介やコーリアカデミーOBの合唱の後、応援団OBのリードの下、全員で「松原に」を斉唱し閉会しました。



総会議事進行の様子

関西同窓会幹事長 中野光男(昭和50年・経済学部卒) <連絡先> E-mail:osaka-office@jimu.kyushu-u.ac.jp

第18回唐津地区同窓会

令和2年2月15日(土)に、昨年に引き続き、唐津市市民交流プラザ多目的ホールで、当会主催による市民公開講座を開催し、講座終了後は、唐津市の中心市街地活性化の目玉として、令和元年10月にオープンした複合商業施設「KARAE」の1階に入っている中華料理店で総会・懇親会を開催しました。

公開講座では、九州大学大学院比較社会文化研究院准教授の益尾知佐子先生に「日本のルール、中国のルール」社会の視点でひもとく日中関係」と題し、先生の中国での研究活動や日常生活のご経験を交えたお話を



益尾先生を講師にお迎えした市民公開講座



深川会長による総会・懇親会の開会挨拶

会員一同(参加者29名)は、益尾先生、山縣様と席を同じくして、楽しいひと時を過ごさせていただきました。リニューアルした九大法被のお披露目と毎年恒例の「松原に」春の賛歌」の合唱の後は、今回、初参加で最年少の江口慎吾さん(平成26年経済学部卒)の万歳三唱で幕を閉じました。

九州大学唐津地区同窓会事務局:幸島英伸(平成8年・工学部卒) <連絡先>E-mail:hideno_k@kyudai.jp



九州大学の “学校生活資料”

九州大学総合研究博物館 准教授
三島 美佐子

① 今回ご紹介する資料。箱崎キャンパスの「工学系開示室」にて撮影。机や後ろの棚も救済品です。



まずは文系図書館から救済した、本立てと代木板です(②)。本立ては、手書きで記された銘から明らかに戦前品であることがわかります。鉄製ですっきりと重く、とてもしっかりして



② 旧文系図書館より
上:鉄製本立て、下:木製代木板

九州大学総合研究博物館がキャンパス移転で救済したのは、クラウドファンディングで話題になった戦前木製家具だけではありません。本学で日常的に使われていた品々や、実験器具類なども救済し、保存・活用しています。今回はその中から、いかにも本学らしい、身近な品々をいくつかご紹介いたします(①)。



③ 在・不在の表示器。

しょうか。箱崎の学舎がなくなつた今でも、日々の思い出は皆さんの中にあります。博物館によるモノの収集と保管は、モノと一緒にそのような思い出を収蔵し、次世代につなげていくこともあります。

(注)「法文学部」は1924(大正13)年に設置され、1949(昭和24)年4月に廃止。焼印されている学部名により、ある程度の年代がわかります。

「九州大学総合研究博物館 活動充実基金」 へのご支援のお願い

九州大学総合研究博物館は2020年で設立20周年を迎えました。さらなる博物館活動の充実と、収蔵・展示施設確保へのご支援を、ぜひよろしくお願いいたします。

みんな大好き、博物館。一緒につくろう、博物館!

「九州大学総合研究博物館 活動充実基金」
お問い合わせ・申し込み先



九州大学博物館事務室
電話:092-642-4252(平常時:月~金 10:00-17:00)
メール:office@museum.kyushu-u.ac.jp

受賞のお知らせ

令和2年度 春の褒章・叙勲

【紫綬褒章】

森 正樹

医学研究院 主幹教授

紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に授与される褒章です。
森教授は、治療が難しいとされる難治癌の中で、特に患者数の多い消化器癌の難治癌克服に向けた研究を行い、難治性の要因とされる癌幹細胞の研究分野に貢献し、癌幹細胞の新規マーカーの同定とそれを応用した治療法の開発とともに、難治癌を早期の段階で発見する手法の開発における業績が評価されました。



【瑞宝単光章】

中原 順子

元九州大病院看護部副看護部長

令和2年度
科学技術分野の文部科学大臣表彰

科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として表彰するものです。

【科学技術賞開発部門】

石川 邦夫

歯学研究院 教授

「炭酸アパタイト骨補填材の開発」

【科学技術賞研究部門】

磯辺 篤彦

応用力学研究所 教授

「マイクロプラスチック等による海洋プラスチック汚染の研究」

長田 博文

数理学研究院 教授

「無限粒子系の確率解析学の研究」

【若手科学者賞】

河原 吉伸

マス・フォア・インダストリ研究所 教授

「複雑現象解析のための統計的機械学習に関する先駆的研究」

島田 敬士

システム情報科学研究院 教授

「教育ビッグデータを活用したラーニングアナリティクスの研究」

宮田 潔志

理学研究院 助教

「新規有機光機能性材料の光励起ダイナミクスの研究」

令和元年度
福岡県防災賞

福岡県の防災対策の推進に大きな貢献をした団体・事業所・個人を表彰し、その活動を広く周知することで、防災思想の一層の普及および地域の防災力の向上を図ることを目的として表彰されるものです。

【知事賞】

九州大学平成29年7月

九州北部豪雨災害

調査復旧・復興支援団

第4回 宇宙開発利用大賞

宇宙開発利用の推進において大きな成果を収め、先導的な取組を行うなど、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした事例に対する表彰制度です。

【環境大臣賞】

三谷 泰浩

工学研究院附属アジア防災研究センター 教授

岡島 裕樹

工学研究院附属アジア防災研究センター
特任助教

「G空間情報技術を活用した地域防災システムの研究開発と社会実装」

令和元年度 日本都市
計画学会計画設計賞

都市計画に関する計画設計、事業などに關する作品の中から、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを顕彰することを目的として1959年に創設された賞です。

九州大学

坂井 猛

副理事 キャンパス計画室 教授

鶴崎 直樹

人間環境学研究院 准教授

外井 哲志

元工学研究院 准教授

出口 敦

元人間環境学研究院 教授

「学術研究都市の拠点として地域と共生する九州大学伊都キャンパス」